

夏合宿終わる

台風10号の大雨の中、合宿が始まりました。宿泊するはずの他の団体はキャンセル。おかげで、1日目は気兼ねなく部屋での練習に取り組みました。夜は、合唱団のこと、家族の話や教育界のことなど、話は多岐に渡り、3名のI氏のあまり咬み合っているととは思えない議論も、30年以上の付き合いがあってこそこの思いを深くしながらの有意義な時間でした。

合唱団に関係のあるところの話をまとめると、簡単に言ってしまうと、30年以上続けて来た財産を大切にしつつ、それを、もっと高めるための取り組みをしていこう、と言うことでしょうか。具体的な取り組みについては、はっきり思い出せません。(眠気をこらえながら聞いていましたのですみません。)市橋さん、石原さん、その辺のところを書いていただけるといいのですが。次号に載せたいと思います。コーラルフェストの曲目等は、また後日と言うことで、決まっています。

丹沢学舎で合宿をやるようになってから、1回も星空を見た記憶がなかったのですが、今回は、夜中に晴れて、少しだけ星空を見ることができました。

2日目は、台風一過の晴天で気温が上がりましたが、クーラーのきいた練習場で、気持ちよく練習に取り組みました。人数の割には声が良く出ていて、他のパートの声を聞くゆとりもできていたのではないのでしょうか。午後2時までの練習をこなし、無事合宿は終わりました。今回は、1泊2日でした。やはり、もう1泊ぐらいしたいなあと思いましたが、みなさんはいかがでしたか。



みずいろの風よ

眞形泰雄

この合唱曲には思い出があります。といっても、「自分が思いどおりに歌えなかった。」ことなのですが...。30年ほど前にこの曲の合唱をしている人は多いと思いますが、目標にそのような完成はできなかったと思います。今になって、その時の思い出が蘇り、「30年経って、私たちは少しは進歩したかな？」と、それを試したかったこともあります。

大手拓次と村谷達也の組み合わせは、フィ・リングが割り合いあっているように、私は思います。詩は大手拓次の長がよく表れているようすし、曲は村谷達治の展開をよく表しているようす。マッチした合唱曲だと感じます。和音の変化は、いろいろな色の風を表すように変化していますから、それぞれの風に合うような雰囲気の変化が必要かと思っています。



いま歌っているのを聞くと、以前より合唱に余裕ができてきたように思えます。「年の功」かもしれませんよね。音を作ることになってきているのを感じます。必死になって音取りをやっていた時代に比べると、いまはゆったりと捕らえる気持ちの大きさが感じられるのです。焦っていない感じが、曲の良さを引き出せるかもしれません。技術的なことはよくわかりませんが、気持ちのまとまりと余裕が、合唱曲を良くしていると感じられました。ぜひ、ある程度の曲のまとまりを追求したいものです。